



東地中海地域ニュース

イスラエル：国防軍によるイラン、ヒズボラ、シリア、パレスチナ情勢評価 (7月11日付け現地各紙)

1. イラン：

- (1) イスラエル国防軍 (IDF) 情報部によると、イランは単独で核兵器製造が可能となる技術的境界線を6ヶ月から1年以内に超え、早ければ2009年中頃迄に、又、おそらくは2010年頃に核開発能力を獲得する。
- (2) イランが核兵器をイスラエルに対して直ちに使用する危険性についての懸念はないが、核兵器を保有することでイランが獲得する安全保障上の意義には懸念がある。その場合、現在秘密裏に行われているイランによるテロ支援が、よりあからさまに行われることになる。
- (3) イランは、膨大な石油収入のおかげで国内の平穏を獲得し、反対意見を押さえ込んでおり、堅固な体制を維持している。

2. シリア：

IDF 情報部の分析官は、イスラエルとの外交プロセスが再開されなければ、否定的なトレンドが継続すると予測している。シリアがイスラエルとの戦争に関心を持っているようには見えないが、イスラエルが懸念しているのは「誤解」であり、それによって戦争となることである。イランやロシアが、「イスラエルが米国の同意の下、シリアを攻撃する準備をしている」との偽情報をシリアに与えることを懸念している。

シリアは、継続してヒズボラやイラン人と共同して、兵員の武装、訓練、改良兵器の実験を行っている。IDF 情報部は、シリアがヒズボラに対し、中距離ロケットを含めた兵器を提供し、第二次レバノン戦争でイスラエル空軍が破壊した施設の再構築を支援していると確信している。

3. ヒズボラ：

IDF 情報部は、ヒズボラは、去年の戦争で受けた損害の為に、現在のところイスラエルともう一戦交えることに関心がないと確信している。IDF 情報部の計算では、ヒズボラは、その勢力の10%に当たる600人の戦闘員を失った。ヒズボラは、新しく戦闘員の勧誘を開始したが、ヒズボラに参加しようとするシーア派の熱狂は、去年の戦争以来減少しており、その結果、新兵補充の為に15歳程度の少年をも無理やり徴兵している。

4. パレスチナ：

パレスチナによるテロは、今後も継続すると予想されるが、イスラエルの生存に関わるほどの脅威とは考えられない。IDF 情報部分析官によると、「アッバース議長が今後、ガザ地区の支配権を取り戻すことはほとんどない」としており、アッバース議長は、西岸地区における権力基盤の回復を試みており、西岸・ガザでの選挙を行うつもりだが、アラブ世界での正当性を獲得しつつあるハマスがこの動きを封じるであろうと見ている。